

鬼木忠造と菅公歴史館

太宰府天満宮本殿裏にある文華殿（崇敬者会館）の地階には、菅公歴史館と呼ばれる展示施設があります。そこで私たちは、博多人形を配したパノラマ16場面による菅原道真の生涯と、「天神さま」への信仰を形にした様々な天神人形を見ることが出来ます。この建物は昭和52年、一千七十五年大祭の記念事業の一つとして造られました。歴史館の誕生はそれより半世紀前の大正の終わり頃。鬼木忠造という人物が「菅公御一代記」を人形で表現しようと考へ、天満宮の北神苑に菅公歴史館を建てたことに始まります。

太宰府人物志

資料室だより④

鬼木忠造は明治29年（1896年）太宰府生まれ。福岡商業学校（現福岡市立福岡高等学校）出身。昭和

7年（1932年）頃、腐敗政治の打破を唱える簡牛凡夫（糸島郡可也村出身、衆院4選）の革新運動に共鳴し、大日本革新会の結成に奔走します（『ふるさと人物記』）。鬼木は昭和17年（1942年）から昭和21年にかけて戦中戦後の厳しい時期に旧太宰府町の町長をつとめますが、在任中の昭和18年には名横綱双葉山の道

場誘致を成功させるなど、町に明るい話題をもたらしました（『広報だざいふ』840号）。彼は美術に造詣が深く、昭和10年には地元画家・吉岡拝山について本を著しています（『拝山先生之片鱗』）。戦後は福岡に移り住み、菅光堂という美術商を開きました（『福博人事交友録』）。

古い絵葉書には、菅公歴史館の昔の姿が写っています。今ではお石茶屋の脇の長い石段を残すのみとなった観音堂が見え、その石段の左側には茶店らしき建物が2軒。うち左の店の2階屋根には「照星堂」の看板。さらにその左隣に菅公歴史館の四角い建物。トンネルを思わせるアーチ型で囲んだ入口正面に、「菅公歴史館」の文字と梅のマークが目立ちます。

菅公歴史館は戦前に一度改築されたようですが、その当時のパノラマ展示の博多人形は小島与一、背景は前田甚太郎。館内には若い女性ガイドが数人立ち、場面にそって菅公の生涯を説明していたそうです（『太宰府市史 通史編別編』）。